

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第110版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

無料メールマガジンも
配信中です

神家 総本家
瓦版



こちらから登録いただけます
www.caguya.co.jp/
kawaraban/



【水遊びの選択】
昨年度までは「いるか・らっこ・かに」の3つにわけて選択できるようにしていましたが、大人には把握できても子どもたちにはちょっと難しかったので、今夏からは身近な信号の色分け（緑・黄・赤）に表示を変え...子ども達を見ながら環境づくりも進化しています！

子どもが自分で選ぶ

熊本県の幼保連携型認定こども園城山保育園様では、色々な活動が「選択制」に。例えば「水遊び」では、水のかかり具合を信号で表示し、「緑」は顔に水がかかっても大丈夫、「黄」は顔に少し水がかかっても大丈夫、「赤」は顔に水がかかりたくない、と色分けし、朝のお集り時に子どもたちがそれぞれ遊びたい色を選ぶそうです。また「お散歩」では、目的地をいくつか決め行きたい所を選ぶだけでなく、距離も「長

い、中くらい、短い」など選べる環境を用意しています。他にも様々な活動が選択できるそうです。そんな風にも子ども自身が主体となって自ら選択できることにより、遊びへの意欲に繋がったり、責任感が生まれてやり遂げた後は達成感も味わえたりすることから、保育者は自発的に遊べる環境を準備する必要があります。私たちが人への関わりとして、可能性を信じたり、尊重を大事にしていきたいです。



新たなスタートに向け足元を見つめ着実に歩まれています。

神奈川のある認定保育室が来年に認可保育園になられるという事で、園長先生にお話を伺ってきました。事務的な手続きなどで非常に忙しくされる中、一番頭を悩ませていらつしやったのが「保育の見直し」について。市の担当者から言われる「もっと認可らしく...」という言葉は、初めて認可へ移行する立場にとっては重たいものであり、それをどう保育に落とし込んでいったらいいかと悩まれていました。しかし、他園の見学をしてみても園庭やスペースなど設備面は全然違うため、「器が違うのに他と同じことやっても、同じ答えはでないしイメージもできない。やはり自分たちがやってきたことをベースにしていきたいこと、大事なのではないかと」と、今あるものに焦点を合わせ、自分たちの取り組みを整理す



園長先生の今のご自身のテーマとして、このような欠けたドーナツのキーホルダーを付けていらっしゃいました。

眼差しの転換

大分県のももそのこども園様にお伺いした際のことです。「なぜ正規職員とパートタイムの雇用形態だけにしているのですか？」とお聞きすると、園長の今井先生が、「様々な雇用形態を作ると、同じ就業時間だけでもポーンナスがある、〜がないなど、給与など雇用形態に様々な付帯するもので先生方が意識的にも、無意識にも仕事や役割を分けてしまったり、感情的に嫌な思いをしたりするんです。皆でチームとしてやっていけるように、雇用形態の壁を作らないためにも、わざと

そうしています」と教えてくださいました。また、保育士だけでなく、調理も「保育者」だからこそ、特殊給与を調理の皆さんにもつけているそうです。すると分け隔てるものがなくなり、同じ「保育者」としてお互いの長所から関われるようになったそうです。キャリアアップ助成金についても同じくみんなが安心してするために分け隔てないことが大切だと仰います。どれだけシンプルにして壁を無くしていけるか。そこが安心して働ける職場づくりの一つなのだと言って頂きました。



園長も保育者！分かれずに皆でお互いの長所で助け合います。

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

動画の持つ力

前晩、稲刈場の中で花火をした際の様子。
日本家庭で行う花火の楽しみは、思わずカメラを持ち、撮影に没頭してしまいました。



クルーブログにも動画を取り入れています。

情報発信や共有をしたいと考えた時に、文字や写真から伝えられることもあれば、そうでないこともあり

例えば千葉県にあるカグヤの『むかしの田んぼ』では、緑の稲穂が風に揺れてたなびく様子がとても雄大で息を飲むような光景なのですが、この場面は言葉だけでは伝わりにくいもの。やはり動画の方が雰囲気や伝わりやすいのではないかと考え、最近はいろいろな場面を動画で記録

することに挑戦しています。

社内の一ヶ月を振り返る「ときめきムービー」という実践は、今までは静止画と文字で構成していたスライドショーでしたが、最近は動画も取り入れたりと少しずつ変化したことで、伝えられる情報量が格段にアップしたことを実感しています。いつでも気軽に動画を撮影できる時代。子どもたちに生き方や働き方を残し伝える手段としても、動画の力は大きいかもしれません。

これからも自分たちの実践が生き方や働き方、商品につながるように、さらには伝承していくためにも、新しい方法をためらわずに取り入れていきたいと思えます。



さわさわ…まるで音が聴こえてきそうな風景も動画だと臨場感が出ます。



むかしの田んぼの動画はこちらのQRコードからご覧いただけます♪

カグヤガーデン

これまでも何度か竹取新聞で紹介させて頂いている、カグヤの社内にある「カグヤガーデン」で花の植え替えを行いました。猛暑の続いた8月が終わり、朝晩は何となく涼しさも感じるようになり、夏の草花から秋の草花へと社内においても少し



プランター全体の様子を見ながら植える場所を考えていきます。



夏から秋の草花がプランターいっぱい咲き誇っています。



オフィスの中でも花の甘い香りを感じます。

で植え替えを行いました。「カグヤガーデン」の特徴は、1種類の植物を1つのプランターに植えるのではなく、様々な草花を1つのプランターに植える「混植」という方法を取っています。様々な年齢の子どもたちが園で遊んでいるように、プランターの中で様々な草花が時期をずらしながらも咲き誇っています。

夏季実践休暇

夏休みにテーマを設けて過ごす「夏季実践休暇」をクルーそれぞれが行いました。お墓参りや親戚と集まったり、子どもと一緒に空手の関東大会のお手伝いに行き、関東大会のレベルの高さを肌で感じたり、日焼けして夏らしい過ごし方をしたクルーがいたり、思い思いに夏季実践休暇を過ごしました。休暇明けには、それぞれが実践休暇をどのように過ごしたのか、どのような学びを得たのか

一期一会庵

清らかに生きて豊かに暮らす
〜むかしの人の知恵〜

先日、千葉県神崎に借りている「むかしの田んぼ」で無事に今年の分の御米を収穫することができました。無農薬であることはもちろんのこと、無肥料で育てているため通常の稲よりも小ぶりですがいのちの力はとても充実して美味しいむかしの御米ができます。

今回は、カグヤの仲間と共に田んぼの真ん中だけを刈り取り、そこに祭壇を設け、床を上げゴザを敷き、その場で竈御飯を炊いて、おむすびを握り、漬物の燻製や汁椀なども添え団欒しつつ、お祝いにドジョウ掬いや早乙女などの伝統衣装を着て豊かに楽しい収穫祭を味わいました。現代の農業は、便利な機械や農薬や肥料などを用いて効率が上がりましたが短縮することができるようになりました。しかしその短縮された時間で今度はもっと大きな収穫を得るために田んぼをさらに拡大し、さらに

を共有し合い、約1週間ぶりの再会でもお互いの元気な姿に安堵するものもありました。子どもたちが夏休みに様々なことに挑戦するように、私たちも「夏季実践休暇」を利用して様々な実践を行いました。各クルーの実践の詳細はクルーblogをご覧ください。



親族が集まり家族で団楽



子どもたちと一緒に先祖様へ感謝の気持ちを込めて手を合わせました。

時間がなくなってしまう。

機械化で効率や便利さを追求するあまり、大勢で一緒に取り組んでいた農業も一人で済むようになり、働くことも次第に作業のようになってきました。みんなお金のために働き、お金を稼ぐのみの農業になり、農協など問屋が買い取ってくれる見たい目のよいお米作りのために農薬を大量に使い、さらに収量を増やすために肥料を大量投入するようになりました。もっともっとと機械化し拡大することですさらに健康も経営も悪化するという悪循環に陥り時間的ゆとりもなく、将来農家になりたいという若い人も減ってきています。

本来、むかしの日本の農業は厳しい自然にあっても豊かなものであったはずですが。それはかつての「日本の原風景」の中に遺っているように、みんなが笑い稲と一緒に育てていく中で豊かな時間を過ごしたから今日まで続いてきたのです。

【編集後記】

北海道胆振東部地震に於きまして未だ安否不明となっておられる方々が一刻も早く無事救助されますことを心よりお祈り申し上げます。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます